毎月1回（8月・9月を除く）発行

CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

ChibaTech News

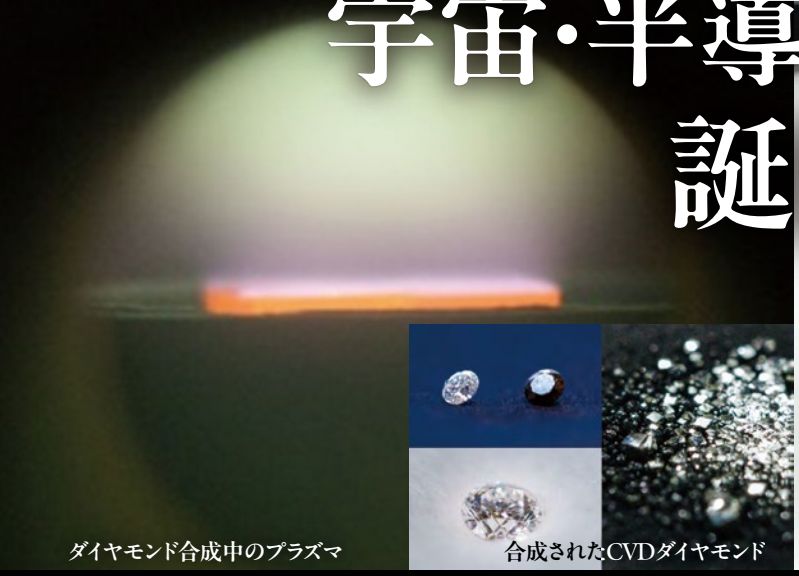
No_709
2026年9・10月号

千葉工業大学
入試広報部
〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344


電動ターボポンプ方式ハイブリッドロケットエンジンの噴射試験


空中に浮遊する高温金属

2027年4月 新学部
宇宙・半導体工学部
宇宙・半導体工学科
誕生


ダイヤモンド合成中のプラズマ

合成されたCVDダイヤモンド



リソグラフィー直後の半導体メモリーデバイス、クリーンルーム内での最終確認

「宇宙・半導体工学部　宇宙・半導体工学科」が
2026年9月17日（木）付で文部科学省に設置届出が受理された。

[CONTENTS]

【2頁】全国４０会場で PPA 地区懇談会を開催
【3頁】モンゴル国教育筆頭功労者賞を受賞
【4頁】令和８年度秋季入学式 / 令和８年度秋季学位記授与式 / 令和８年度実験動物慰霊祭
【5頁】オープンキャンパス６，８３６人に来場者増加 / 夏の大学見学会 昨年の２．５倍の４２０人が来場
【6頁】AI 活用推進委員会を設置 / 東京スカイツリータウン® キャンパス総来場者１３０万人を達成
【7頁】2026 年度 PERC『太陽系天体探査ミッション』公開講座シリーズ開催
【8頁】可視光ファイバーレーザーの道を拓く
【9頁】リチウムイオン電池の反応のむらをナノ技術で可視化に成功 / 佐倉市のこれからの学校教育を考える
【10頁】後期授業開始 / 防火・防災訓練を実施 / 自治体へ文房具を寄贈
【11頁】芳香剤づくりで化学を体験 / 写真部が全国優勝
【12頁】就職・進路支援便り / 受賞おめでとうございます！

全国40会場で PPA 地区懇談会を開催

地域の対話から学生の学びと生活を支える

9 月 5、6、12、13、27 日の 5 日間、北海道から沖縄まで全国 40 会場、総来場者 1,435 名となる「PPA 地区懇談会」を開催した。保護者と教職員が直接対話し、学生の修学、生活、進路について情報を共有する恒例の取り組みである。各会場では PPA と大学の近況、学生生活、就職・進路支援などを説明し、グループ懇談や個別面談を行った。地域の同窓会支部も参加し、地元企業や U ターン就職に関する情報を届けた。

書面決議後 初の対面交流

6 月 27 日に予定していた PPA 評議員会・総会は、台風 7 号および 8 号の影響で対面開催を中止し、書面決議となった。評議員会・総会とも定足数を満たし、事業報告、決算、新役員、事業計画、予算の全議案を可決した。対面で集う機会が限られたことから、地区懇談会は大学と保護者が直接言葉を交わす大切な場となった。

理事長が伝えた改革と支援

函館・青森・仙台会場に出席した瀬戸熊 修 理事長は、少子化など大学を取り巻く環境が変化する中、宇宙・半導体分野をはじめ、社会の要請に応える教育改革はスピード感をもって進めることが重要であるとの考えを説明した。また、修学と生活の両面から学生を支える姿勢を強調し、学生の健康と食の安定の為の学食無料券配布など生活面の支援にも触れた。併せて、困り事があれば早めに大学へ相談してほしいと伝えた。

各地の声を今後の支援へ

各会場では、成績や進級、学生生活、大学院進学、就職活動、U ターン就職などについて活発に意見を交換した。青森では豪雨時の安否確認や大学からの情報発信、高崎では就職活動とインターンシップへの関心が寄せられた。沼津では同窓会が地元企業とのつながりを紹介し、宮崎・鹿児島では少人数の座談会で授業とアルバイトの両立やサークル活動について経験を共有した。教職員による個別面談に加え、同窓会支部での交流や保護者同士の対話も重ねられた。全体説明、グループ懇談、個別面談を通じて寄せられた声を今後の学生支援に生かし、大学と家庭の連携をより一層深めていく。

地区懇談会は、大学から情報を届けるだけでなく、家庭の気付きや地域の声を受け取る双方向の機会である。遠方の家庭にも支援体制を身近に感じてもらえるよう、今後も丁寧な対話を重ねて行く。

会場	日程	会場	日程	会場	日程
札幌	9月6日(日)	潮来	9月5日(土)	沼津	9月5日(土)
函館	9月5日(土)	宇都宮	9月13日(日)	名古屋	9月12日(土)
旭川	9月5日(土)	小山	9月12日(土)	大阪	9月13日(日)
青森	9月6日(日)	高崎	9月13日(日)	広島	9月12日(土)
盛岡	9月13日(日)	さいたま	9月12日(土)	松山	9月5日(土)
仙台	9月12日(土)	新潟	9月13日(日)	高松	9月6日(日)
秋田	9月12日(土)	長岡	9月12日(土)	福岡	9月13日(日)
山形	9月5日(土)	富山	9月6日(日)	大分	9月12日(土)
酒田	9月6日(日)	甲府	9月13日(日)	宮崎	9月6日(日)
会津	9月13日(日)	長野	9月5日(土)	鹿児島	9月5日(土)
福島	9月12日(土)	松本	9月12日(土)	那覇	9月12日(土)
いわき	9月5日(土)	上田	9月6日(日)	本学	9月27日(日)
水戸	9月6日(日)	静岡	9月6日(日)		
つくば	9月5日(土)	浜松	9月5日(土)		


函館会場


青森会場

函館と青森の両会場には瀬戸熊 修 理事長が出席し社会の変化に応じた教育改革と学生を支える大学の姿勢を保護者へ伝えるとともに、大学の現状や学生支援について、意見を交わした。


高崎会場

教職員との懇談を通じ、学生生活や今後の進路を確認。保護者から安心したとの声が聞かれた。


沼津会場

同窓会静岡東部支部が地域のネットワークとＵターン就職を紹介。保護者同士の交流も深まった。


鹿児島会場

参加者が互いの経験を語り、大学・同窓会とともに学生生活や地元就職について意見を交わした。


本学(津田沼)

現在の就職環境と本学の進路支援について講演を行った。

モンゴル国
教育筆頭功労者賞を受賞



教育の発展への寄与を評価

瀬戸熊 修 理事長は 9 月 18 日（金）14:00 から、モンゴルの首都、ウランバートルの在モンゴル日本国大使公邸で行われた授賞式典において、モンゴル国教育省の最高勲章「教育筆頭功労者賞」を受賞した。同賞は、モンゴル国の教育の発展に寄与した者にモンゴル国教育省から授与されるもの。

式典には、モンゴル国側からエンフアムガラン教育大臣が出席し、瀬戸熊 修 理事長に勲章を授与した。また、井川原 賢 駐モンゴル日本国大使のほか、モンゴル側の教育関係者、学校代表らも出席した。受賞式は、同公邸で iPad 贈呈式とあわせて実施された。

大使公邸で iPad 1,000 台の贈呈式

贈呈式で、地域代表との MOU（協力に関する覚書）署名を行った後、地方部および首都ウランバートルの計 41 校に iPad 合計 1,000 台を寄贈した。2025 年 1 月にも、学生の卒業に伴い大学へ返却された iPad を有効活用し、モンゴルの子どもたちに 550 台を寄贈している。今回の寄贈先には、アルハンガイ県、オブス県、バヤンホンゴル県、ウブルハンガイ県、ホブド県、エルデネット市の学校が含まれている。またアルハンガイ県からは瀬戸熊 修 理事長へ名誉県民賞が授与されている。当日は会場から約 1,800km 離れたホブド県の学校代表も出席し、本学の教育支援に対する感謝が示された。



左から エンフアムガラン教育大臣・
瀬戸熊 修 理事長



エンフアムガラン教育大臣



MOU 署名・交換



授賞式の参列者

令和８年度秋季入学式

秋季入学式を９月17日（木）、津田沼キャンパス１号館20階ラウンジで挙行し、博士後期課程６人、修士課程７人の計13人が新たに大学院に入学した。

伊藤穣一学長の式辞では「皆さんも千葉工業大学の建学の精神と、その継承の歴史を担うことになります。その誇りと責任を胸に刻んで、悔いのない大学院生活を送られることを願っています。



秋季入学式の様子

これからの大学院生活において、皆さんが自己の可能性を最大限に引き出し、新しい時代と新しい課題に向けて果敢にチャレンジされることを心から期待して私の式辞と致します」と激励した。

令和８年度秋季学位記授与式

入学式終了後、秋季学位記授与式が挙行され、学部卒業者23名、大学院修士課程修了者４名、博士課程修了者1名の計28名が卒業･修了を迎え、情報工学科の中谷尚史（なかや･たかふみ）さん、社会システム科学研究科マネジメント工学専攻博士前期課程の Pham Minh Duc（ファム･ミン･ドュク）さん、工学研究科工学専攻博士課程の戸田菜月（とだ・なつき）さんが、代表として学位記を受け取った。

伊藤穣一学長は式辞にて「今日ここにいる皆さんは、グローバル化が急速に進展する世界において、国境を越えて存在する政治、経済、科学技術など様々な問題を解決するための力の源となる、



学位記を受け取る戸田菜月さん

『世界文化に技術で貢献する』という千葉工業大学の精神を身体の隅々まで体得されたことと確信しています」と期待を寄せた。

さらに「卒業生・修了生の皆さんは、いよいよ大学から実社会へと羽ばたきます。皆さんの前途には本当の意味の試練が待ち構えていることでしょう。それを乗り越えられるかどうかは、皆さんが今後も学び続けられるかどうかにかかっていると思います」と呼びかけた。

令和８年度実験動物慰霊祭

９月24日（木）、津田沼キャンパス２号館２階会議室１で、実験動物慰霊祭を執り行った。

この式は、教育・研究のために供された実験動物の冥福を祈り、感謝の意を表すため、毎年実施している。

当日は、関係する教職員や学生が参列した。参列者は黙祷を捧げた後、順に献花し、実験動物の尊い命に感謝と敬意を示した。

参列者は、科学・技術の発展が実験動物の犠牲の上に成り立っていることを改めて認識し、生命を尊重しながら教育・研究に取り組む姿勢を確認した。



実験動物を追悼し、献花する学生

オープンキャンパス6, 836人に来場者増加

今年度２回目のオープンキャンパスを８月１日（土）、新習志野キャンパスで開催した。天候にも恵まれた当日は、昨年の来場者数を上回り史上最高となる 6,836 人が訪れ、午前 10 時から午後３時 30 分まで、入試制度をはじめ、各分野の教育・研究、学生生活などを幅広く紹介した。

学科別総合型選抜説明会では、選抜方法や求める学生像などを説明し、各学科の学び体験では、研究や授業の一端に触れる機会を設けたほか、進路に関する疑問に応じる個別相談も行った。学部学科全体説明会には 1,638 人が参加し、入試ガイダンスには総合･推薦で 1,010 人、一般で 420 人、保護者向けガイダンスには 313 人が足を運んだ。



学部学科全体説明会の様子



学科による学び体験の様子

キャンパスライフを丸ごと体験

キャンパス内では、図書館に 2,063 人、アスレチックジムに 1,049 人、学生寮に 862 人が訪れ、キャンパスツアーでは構内を巡りながら設備や学修環境を見学した。学食無料体験も 5,175 人が利用し、学生食堂で提供される食事を味わった。

学生が中心となって準備した展示やスタンプラリー、トークライブに加え、「在学生にきいてみよう」では、授業や課外活動、日々の過ごし方などについて学生が来場者の質問に答えた。このほか、女子学生と交流する「チバテクコの部屋」や、大学１、２年次の基礎教育を伝える「新習志野からはじめよう」も開催した。

入試や教育・研究に関する情報だけでなく、施設見学や在学生との交流を通して、入学後のキャンパスライフを具体的に伝えるオープンキャンパスとなった。



学生食堂の無料利用に列をつくる来場者ら

夏の大学見学会 昨年の2.5倍の420人が来場

夏の大学見学会を８月６日(木)から 28 日 (金) にかけて、新習志野キャンパスと津田沼キャンパスで開催した。オープンキャンパスへの参加が難しい人や、気軽にキャンパスを見学したい人を対象とした予約制の催しで、新習志野キャンパスでは 270 人、津田沼キャンパスでは 150 人の参加申込みを受け付け、両キャンパスで延べ 420 人が参加し、昨年の延べ 166 人を大きく上回った。

８月のオープンキャンパスと合わせ本学への関心がうかがえた。

大学生活への理解深める

学生スタッフによる大学の概要やキャンパスライフの紹介、職員による入試制度の説明に続き、キャンパスツアーを実施した。ツアー終了後の個別相談では、入試や学部に関する相談に職員が応じ、一人暮らしやサークル活動など学生生活に関する質問には学生スタッフが答えた。

参加者（高校生）アンケートでは 411 件の回答があり、学年別内訳では、３年生が 172 人で最も多く、１･２年生も計 239 人を占めており、関東圏以外から訪れた人も見られた。

AI 活用推進委員会を設置



AI を活用した学びを表現したイメージ（2026 年度 FD シンポジウム資料より）

7 月 1 日（水）、AI 活用推進委員会を設置した。（委員長：大川茂樹 副学長）

教育・研究から大学業務まで全学で推進

同委員会は、教育・研究、学生指導、大学業務での AI 活用を推進するほか、利用上の課題や倫理、関連インフラ・サービスの整備、Faculty Development（以下 FD）・Staff Development（以下 SD）との連携などを担う。

背景には、本学が段階的に進めてきた生成 AI への取り組みがある。令和 6（2024）年に FD 委員会の主要検討課題とし、学生生活アンケートを実施。令和 7（2025）年には生成 AI ガイドラインを策定し、FD 研修、実践型ワークショップへ展開した。令和 8（2026）年度には manaba の「教員向け AI ラボ」、シラバスの「生成 AI アセスメントスケール」を整備した。

また、同委員会では、学生・教員らの主体的な提案に基づく AI を活用した先駆的・独創的な学習・教育・研究プロジェクトに対し「AI 活用推進助成プログラム」を実施し、105 人の応募者のうち 89 人を採択した。採択者には生成 AI サービスの利用枠（AI トークン）を助成している。

7 月 23 日の FD シンポジウムで大川委員長は、生成 AI は教育を置き換えるものではなく「教育の設計を問い直す触媒」であると説明。「AI を使うか」から「AI を使って、どのような学びを設計するか」へ議論を進める考えを示した。AI との対話ログは学びの過程を映す教育資産になり得る一方、まず「学生のデータ」であり、倫理審査、本人同意、個人情報保護、セキュリティを前提とする。

今後は、授業設計への組み込み、評価方法の再設計、教員支援の継続、データ管理・倫理基盤の制度化、研究成果の国際発信を一体的に推進する。全員一律の導入ではなく、意欲ある教員・学生の実践から成功例と失敗例を共有し、確かめながら全学へ広げる。AI 活用を技術導入にとどめず、教育の未来を設計するプロジェクトとして進めていく。

東京スカイツリータウン® キャンパス　総来場者130万人達成

東京スカイツリータウン ® キャンパス（東京都墨田区押上･東京スカイツリータウン 8 階）は、7 月 26 日（日）、総来場者数 130 万人を達成した。その 130 万人目の来訪者は東京都世田谷区から訪れたご家族である。

当日は、惑星探査研究センター（PERC）による公開講座シリーズ第 1 弾「小惑星探査機『はやぶさ 2#』小惑星トリフネをフライバイ！」の同キャンパスでの開催日でもあり、講師を務めた千秋博紀副所長・主席研究員と山田学上席研究員から、ご家族に「はやぶさ 2」関連グッズが贈られ、記念撮影が行われた。

ご家族が同キャンパスを訪れるのは初めてで、学生から展示について詳しい説明を受け、災害対策ロボットを本学の未来ロボット技術研究センター（fuRo）が製作・提供していることに驚いたという。また、隕石から刀を作った「天鉄刀」の展示について「発想が面白いと思った」と話した。



『はやぶさ 2#』公開講座の講師を務めた千秋博紀 PERC 副所長・主席研究員、山田学 PERC 上席研究員から、130 万人目の来場者ご家族へ関連グッズを贈呈。記念パネルを囲んで記念撮影

2026年度PERC「太陽系天体探査ミッション」公開講座シリーズスタート

惑星探査研究センター（PERC）は、東京スカイツリータウン® キャンパスで、「太陽系天体探査ミッション」公開講座シリーズの第1弾と第2弾を開催した。『はやぶさ2#』による小惑星トリフネのフライバイ探査と、打ち上げが迫る火星衛星探査計画『MMX』をテーマに、各ミッションに携わる研究者が概要や成果を紹介した。

『はやぶさ2#』による トリフネ探査を解説

令和8（2026）年7月26日（日）、第1弾「小惑星探査機『はやぶさ2#』小惑星トリフネをフライバイ！」を開催し、78名が参加した。

講師は、千秋 博紀 惑星探査研究センター副所長・主席研究員と、山田 学 同センター上席研究員である。千秋副所長はレーザ高度計（LIDAR）、近赤外分光計（NIRS3）、中間赤外カメラ（TIR）を、山田上席研究員は光学航法カメラ（ONC）を担当している。

講座では、これまでの『はやぶさ2』の成果を振り返るとともに、7月5日に実施された小惑星トリフネのフライバイ探査について詳しく紹介した。本講座は墨田区との連携協定締結後初のイベントとなり、墨田区からは31名が参加した。



LIDAR実物大模型を使って解説する
千秋博紀 PERC副所長・主席研究員

打ち上げ迫る『MMX』を クイズと模型で紹介

令和8（2026）年8月22日（土）には、第2弾「火星衛星探査計画『MMX』打ち上げ目前トークライブ！」を開催し、91名が参加した。

講師を務めたのは、『MMX』のレーザ高度計（LIDAR）開発責任者である千秋 副所長、着陸地点選定ワーキンググループ責任者である和田 浩二 同センター副所長・主席研究員、ダストカウンター（CMDM）開発責任者である小林 正規 宇宙・半導体工学科教授・同センター主席研究員である。

講座では、10月20日（火）に打ち上げ予定と発表された『MMX』について、クイズを交えて分かりやすく紹介した。本学は『MMX』のサイエンスを主導するとともに2つの観測機器の開発を担っている。当日は、その2つの観測機器（LIDARとCMDM）の実物大模型も披露された。この模型は講座終了後、東京スカイツリータウンキャンパスで常設展示されている。打ち上げ間近なこともあり会場はほぼ満席で注目度の高さがうかがえる。今年はPERCが関わるさまざまな探査ミッションが節目を迎える。この公開講座シリーズは今後、11月と12月に第3弾以降が開催される。



和田浩二
PERC副所長・
主席研究員



CMDM実物大を前に、
小林正規 教授・PERC主席研究員



山田学 PERC上席研究員

可視光ファイバーレーザーの道を拓く

工学部電気電子工学科 藤本 靖（ふじもと・やすし）教授が第 50 回レーザー学会業績賞（進歩賞）を受賞

世界に先駆け「使える光」へ

藤本靖教授が、第 50 回レーザー学会業績賞（進歩賞）を受賞した。受賞題目は「可視光フッ化物ファイバレーザーの進展」である。通信などに広く使われる光ファイバーに特殊な元素を加え、青色半導体レーザーで励起することで、赤、青、緑、黄色などの可視光を発生させる研究である。藤本教授は「ちゃんとレーザーとして作り上げていったのは世界的に我々が初めて」と語る。現象を示すだけでなく、安定性や効率を保ち、実際に使える光源へ近づけた点が成果の核心である。

社会実装には、光を出す原理の実証とは異なる難しさがある。ファイバーのコアは約 5 μ m。光を正確に合わせても、内部に蓄積する熱でファイバーが伸びたり軸が動いたりすれば、出力は低下する。研究室では放熱・冷却の方法を工夫するとともに、多数の調整機構を備えた構成を簡素化し、小型化を進めた。藤本教授は「安定性とか効率とか、そういうのが下がってはいけないので、そこを維持しながら完成させるのがすごく大事」と説明する。

15 年の共同研究と学生の力

研究を支えたのは、光学ガラスメーカーとの約 15 年にわたる共同研究と、歴代の学生たちである。同社が開発した耐水性に優れるフッ化物ガラスファイバーを基盤に、大学側が可視光レーザーとして育て、相互に改良を重ねてきた。学生は CAD を使い、目的に合う構成を藤本教授と相談しながら設計した。受賞を自身だけの成果とは捉えていない。「本当にちゃんといろいろ苦労してやってくれたのは学生であったり、企業の方々」と強調する。さらに「彼らの力を借りないと、自分のアイデアを実現できなかった」と振り返る。

可視光を 638nm から 319nm へ波長変換して得る紫外光は、ガリウムナイトライド（GaN）半導体基板の検査や加工への活用が見込まれる。従来のヘリウムカドミウムレーザーに代わる、有毒ガスを使わない小型光源のプロトタイプ開発も進む。同等の出力であれば、装置を約 3 分の 1 から 4 分の 1 の大きさにできる可能性があり、かつ無害となる。

計測器の小型化を通じ、より質の高い半導体の製造を支えることが期待される。今回の受賞は一つの到達点であると同時に、研究を世界規模の産業からの需要へつなぐ次の段階を照らしている。

失敗から問いを持つ

藤本教授の原点は、小学生の頃に豆電球と乾電池を 2 個直列につなぎ、強く光った豆電球がすぐ切れた経験にある。「なんでだろうっていうのを考えるようになったのは、やっぱり失敗が与えてくれたっていうのが大きいですね。」

だから今、研究室でも、学生には失敗と分かっていても一度任せ、自ら得た知識を自信につなげる。学生の皆さんへは「ピュアに子どもの頃に心に残っているものに正直になってほしい。子どもの頃は欲がない。そこには本当にやりたいこと、なりたい自分があり、そこに正直に生きられることが大切。だから今でも本当に面白いです。」と目が輝いた。

幼い日の小さな光は、学生と企業の力を束ね、これまでにない色のレーザーを社会へ届ける研究へとつながった。



原理実証は美しい（黄色ファイバレーザー）



本研究の協力者と OPIE'26 展示会にて

リチウムイオン電池の反応のむらをナノ技術で可視化に成功

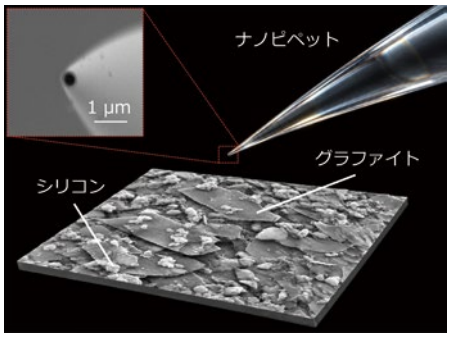
工学部電気電子工学科 熊谷明哉 (くまたに・あきちか) 教授ら 複合電極を場所ごとに測定し新たな評価手法を提示

熊谷明哉教授を主とする研究グループは、リチウムイオン電池の複合電極で起こる反応をナノスケールで測定し、場所によって反応が異なる様子を可視化することに成功した。研究成果は令和 8 (2026) 年 8 月 13 日、学術誌『Chemical Engineering Journal』にオンライン掲載された。

リチウムイオン電池の電極は、電池の反応を担う材料 (活物質) や電気を通しやすくする材料 (導電助剤)、材料同士を結び付けるバインダーから構成されている。従来の電池特性の測定では電極全体の反応をまとめて捉えるため、材料ごと、場所ごとの違いは平均化され、詳しく調べることが難しかった。

研究グループは、先端の直径が約 100 nm の細いガラスのピペットを使う「ナノ電気化学セル顕微鏡」を用い、シリコンとグラファイトを組み合わせた負極を調べた。その結果、反応を「グラファイトが主な領域」「シリコンが主な領域」「両者が混在する領域」に識別できた。さらに、電池の安定性や寿命に関わる保護膜「SEI 被膜」ができる反応も、電極表面に一様ではなく、不均一に分布していることを明らかにした。

この手法により、どの材料が、どの場所で、どのように反応しているかをナノスケールにて詳しく評価できる。材料の分布や境界面での反応やその相関関係を解明し、性能と寿命を高める電極設計につながることが期待される。本研究は、東北大学、名古屋大学、東京理科大学との共同研究である。



本研究のコンセプト図：シリコン粒子とシート状グラファイトが混合したリチウムイオン電池電極の特定部位を、ピペットを用いて選択的に計測（挿入図:ピペットの電子顕微鏡像）

佐倉市のこれからの学校教育を考える

古賀 毅 (こが・つよし) 創造工学部教育センター教授 懇話会会長として基本方針の策定に携わる

1 年半にわたり学校のあり方を検討

古賀毅教授は、「佐倉市におけるこれからの学校のあり方懇話会」の会長として、教育関係者や市民代表などで構成される委員とともに、約 1 年半にわたり活動した。懇話会では、児童・生徒数の減少、校舎・設備の老朽化、児童・生徒の多様性の顕在化、ICT や AI の定着と影響の増大など、市町村が管轄する義務教育段階の学校が直面する課題を検討した。

これらの課題は相互に関係し、複雑化している。地域の持続的な発展を図る観点からも、小・中学校には段階的な変革が求められている中、懇話会として令和 8 (2026) 年 3 月 6 日 (金)、「佐倉市におけるこれからの学校のあり方に係る基本方針」を策定し、佐倉市教育委員会に手交した。

シンポジウムで学校教育の課題を議論

令和 8 (2026) 年 8 月 2 日 (日) には、佐倉ハーモニーホールで、基本方針を踏まえた「これからの佐倉の教育シンポジウム」が開催された。圓城寺一雄佐倉市教育長、阿部光雄・成田市立大栄みらい学園元校長、定野司・東京みらい中学校校長がシンポジストを務め、古賀教授がコーディネーターを務めた。

シンポジウムでは、小中一貫校 (義務教育学校) の意義と課題、学びの多様化学校の実践報告などを交え、学校教育が直面する課題について議論した。

後期授業開始


学生生活アンケートに取り組む学生たち

9月17日（木）、後期授業が始まり、各学年を対象とする後期ガイダンスを行った。教学センターは、学生生活アンケートへの回答や本人・保証人の連絡先の更新、履修訂正期間中の進級・卒業要件の確認など、後期に必要な事項を案内した。

津田沼キャンパスでは、3年生に学生生活に関する内容と進路準備について説明した。就職・進路支援部は、就職・大学院進学を含む将来の選択に向け、自己分析や業界・企業研究、エントリーシート作成、適性検査・面接対策を並行して進めるよう呼びかけた。また、大学公認マッチングサイト「CJOB」やAIキャリアアドバイザー、個別面談などの支援制度も紹介した。

学生にとっては、後期の授業に取り組む中で、今後本格化する就職活動を見据え、準備の必要性を考える機会となった。

防火・防災訓練を実施　地震発生時の安全確保を学ぶ

後期の学科ガイダンス終了後に合わせて、津田沼、新習志野の両キャンパスで防火・防災訓練を実施し、学生・教職員計5,798人が地震発生時に自身の安全を確保する方法を学んだ。

当初は、地震に伴う火災を想定して屋外への避難や放水訓練を予定していたが、雨天予報のため内容を変更し、千葉県北西部地方で震度6強の地震が発生したとの想定のもと、各講義室で机の下に身を隠す自己防護訓練を行った。新習志野キャンパスでは4回、津田沼キャンパスでは3回に分けて実施し、参加率は83%となった。

終了後には、習志野消防署員がそれぞれ講評し、津田沼キャンパスでは「学生の皆さんが積極的に取り組んでいるのが印象的だった。このような訓練が災害時の落ち着いた行動に繋がる。引き続き継続してほしい」と述べるとともに、消火器や屋内消火栓の設置場所と使い方を改めて確かめるよう呼びかけた。新習志野キャンパスでは、「災害時は自分で情報を取って、自分の身は自分で守る行動を取ってほしい」と伝え、避難口の扉や避難可能な窓を速やかに開けること、モバイルバッテリーを早めに適正処理することを促した。


地震発生を想定し、机の下で身を守る学生たち

自治体へ文房具を寄贈　小学校から感謝の手紙

3月11日（水）、包括連携協定を締結する自治体の一部にノート、鉛筆、消しゴムを寄贈した。これらは教育委員会を通じて学校へ配布された。

7月27日（月）には、八街市内の小学校から、10月15日（木）には旭市から感謝の手紙とノートの使い方をまとめた報告が寄せられた。活用方法としては、計算ドリルや自習ノートに用いるほか、児童が興味を持った題材を描くスケッチブックにしたり、音楽の授業時に楽譜を貼ってまとめたりするなど学校ごとの工夫によって、児童の学習や日々の学校生活で活用されている。


小学校から寄せられた感謝の手紙と、学校での活用状況を記した資料

芳香剤づくりで化学を体験



子供の芳香剤作りをサポートする学生



香りつけの工程

7月20日（月）、イオンモール津田沼North1階さくら公園コートで、日本弁理士会関東会主催の「弁理士の日記念イベント2026」が開催され、創造工学部教育センター化学教室笠嶋義夫（かさしま・よしお）教授と応用化学科の学生4人が出展し、吸水性樹脂の粉を使ったオリジナル芳香剤作りを子どもたちに教えた。同イベントは、発明や知的財産への理解を深めてもらうことを目的としたもので、会場では弁理士の仕事やアイデアを守る仕組みを紹介するクイズステージ、工作ワークショップ、展示などが行われた。化学実験コーナーには76人が訪れ、開始直後から終了時刻まで体験希望者が途切れない盛況となった。笠嶋教授らが作り方を説明しながら一人ひとりをサポートし、全員が作品を完成させた。子どもたちからは「粉が急に膨らんですごかった」「最初は水っぽかったが、粉を入れるとだんだん固まっていくのが不思議だった」といった声が聞かれた。材料の変化を間近で観察し、化学の面白さに触れる機会となった。

写真部が全国優勝　繋いだ思いと技術



表彰式で優勝の喜びをかみしめる３人



大会使用写真「朽ちた客車と首輪をつけた猫」

大会使用写真「網走湖にキャンプをしに来たカップル」



文化会写真部は、8月30日（日）、北海道網走市で開かれた「フォトマッチインターカレッジ全国大会2026 in 網走（主催：網走市、網走市教育委員会、網走市芸術文化合宿実行委員会、一般社団法人日本学生写真部連盟）」で優勝した。前年の全国大会では準優勝に終わったが、再び全国の舞台で成果を示した。

大会には部を代表する3人（創造工学部都市環境工学科4年佐々木旺宥（ささき・おうすけ）・工学部情報通信システム工学科3年鈴木脩雅（すずき・しゅうが）・情報変革科学部認知情報科学科2年下河辺龍舟（しもかわべ・りゅうしゅう））が出場し、網走市内で設定された48時間の撮影期間に作品を撮影した。写真選びや編集に多くの時間を充てるチームもある中、メンバーは撮影時間をできる限り生かし、街を巡りながら被写体を探し続けた。天候や光の変化を見ながら撮影を重ね、各自7枚の写真を選び、競技に使用した。

大会では、被写体を見つける「発見力」、画面を組み立てる「構成力」、「撮影技術」が審査される。彼らは「この景色がきれいだから」と感覚だけで選ぶのではなく、何を伝えるために撮ったのかを言葉にして確かめながら作品を選定した。風景の中に主役となる被写体を見いだし、人の営みや土地の空気まで伝える一枚を目指した。

写真を始めたきっかけは、新たな挑戦として大学からカメラを手にしたこと、SNSで見た作品に憧れたこと、家庭にあったカメラで鉄道を撮りたいと思ったことなど、それぞれ異なる。活動を重ねる中で、先輩や卒業生から写真の見方や技術を学び、撮影への助言や移動面での支援も受けてきた。会場には、卒業生である後藤利博（ごとう・としひろ）網走市副市長をはじめ、現地にゆかりのある卒業生も駆け付け、一行を激励した。

限られた時間を撮影に注いだ積み重ねが、前年の悔しさを優勝へと変えた。

就職･進路支援便り

学部４年生・修士２年生向け支援

27卒生限定の「就活個別面談」を実施しています。
相談登録用フォームから希望を入力してください。
相談登録用フォームはコチラ▶

その他、大学主催の支援イベントを引き続き行っていきます。各イベントの詳細は、就職システムやメール配信で確認してください。活動中の学生は、就職･進路支援部スタッフやカウンセラーが伴走しますので、積極的に学内支援を利用しご相談ください。

全学年向け支援

①「仕事･キャリア発見セミナー」
大手企業から、業界や職種･キャリアパス･卒業生の仕事内容などを、千葉工大生向けにお話していただきます。(個別実施)
②「オープン･カンパニー」 大手企業中心に合同実施。

学部４年生大学院進学予定者向け　M1 就活準備講座

大学院進学予定の学部4年生を対象に、大学院1年生からの就職活動に向けた準備を進める全3回の講座です。

※いずれも就職システムで随時情報を更新しますので、ご確認ください。

仕事･キャリア発見セミナー／オープン･カンパニー（10･11月開催分）

日　程	参　加　予　定　企　業	
10月29日(木)	ちばぎんグループ、東京エレクトロン	仕事
11月　5日(木)	アルファシステムズ、イビデン	仕事
11月14日(土)	東京エレクトロンデバイス、加藤製作所、スリーボンド、長野計器、エクシオグループ、能美防災、GSユアサ、クロスキャット、日本ビジネスシステムズ　他	ＯＣ
11月19日(木)	ジェイテクト、東日本旅客鉄道	仕事
11月26日(木)	住友大阪セメント、スズキ	仕事

対　　象：全学部全学年
予　　約：就職システムの支援行事予約

★各企業詳細や実施場所･時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。企業が追加となる場合も、上記方法にて周知します。
★仕事･キャリア発見セミナーは、企業により対面とオンラインいずれかの実施方法です。
★いずれのイベントも、私服で構いません。
ＯＣ：オープン･カンパニー(午前のみ)
仕事：仕事･キャリア発見セミナー(午後のみ1社ずつ実施)

受賞者紹介

受賞おめでとうございます！



一般社団法人 日本トライボロジー学会
トライボロジー会議 2026 春 東京 B34「学生優秀プレゼンテーション賞」

亜酸化窒素を推進剤としたハイブリッドロケット用ポンプ軸受材料の摩擦摩耗試験

田邊（たなべ） 秀一（しゅういち）さん

工学研究科 工学専攻・３年
和田 豊研究室（宇宙輸送工学研究室）

受賞日 2026.7.21



公益財団法人 中山隼雄科学技術文化財団
第13回社会を変える「夢のゲーム」研究アイディア大募集「優秀賞」

WiFi Garden

田名網（たなあみ） 脩人（しゅうと）さん

情報変革科学部・認知情報科学科・２年

受賞日 2026.8.7



電子情報通信学会（国際委員会）
GlobalNet Workshop 2026 Best Presentation Award

Support for Creative Thinking Through a Passive, Non-Deterministic Listener Interface

山之内（やまのうち） 七穂（なお）さん

工学研究科・工学専攻・３年
今野 将研究室

受賞日 2026.9.17

所属・学年は受賞当時のものです。

Chiba Tech News ご愛読の皆様へ

～デジタル版と A4 判（見開き A3 判）へ移行のお知らせ～

入試広報部

Chiba Tech News は
5 月号より全面デジタル化、
6 月号よりお手元で印刷可能な
A4 判（見開き A3 判）となりました。

今後も冊子での送付をご希望される場合は、下記のいずれかの方法にて、入試広報部までお申込みいただけますようお願い申し上げます。

千葉工業大学 入試広報部
① 電話：047 - 478 - 0222　　②メール：cit@chibatech.ac.jp
③ＱＲコード　※送付先のお名前・ご住所とご子女のお名前・学生番号をお知らせ下さい。

これからも Chiba Tech News をご愛顧いただけますよう宜しくお願い申し上げます。